

平成30年度全国学力・学習状況調査 (H30.4.17)

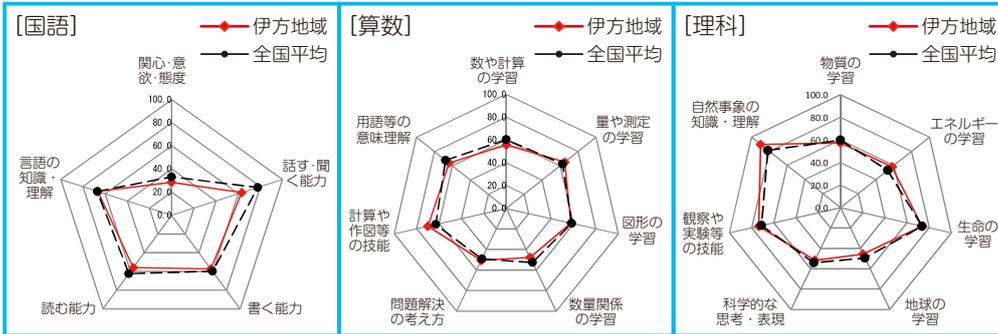
- 1 全国学力・学習状況調査の実施状況について
 - (1) 調査の目的
 - ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 - (2) 調査の対象
 - 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
 - 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒
 - (3) 調査内容
 - 教科に関する調査
 - ※国語、算数・数学
 - ・主として「知識」に関する問題
 - ・主として「活用」に関する問題
 - ※理科
 - ・主として「知識」に関する問題
 - ・「活用」に関する問題を一体的に問う
 - 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 2 伊方町における調査結果の公表について
 - (1) 公表の趣旨
 - 学力や学習状況の調査結果について、学校・家庭・地域のみんながその情報を共有し、学力向上のためにどうしていけばよいかを検討して指導改善等に取り組んでいく。
 - (2) 留意事項
 - ア 「9年間の学びを見通した教育の創造」の町統一テーマの下、小学校・中学校の連携による取組を重視する。
 - 各中学校区ごとの地域を一体的にとらえて取り組む。
 - イ 教科に関する調査や児童生徒質問紙調査は、レーダーチャート等で表示し、実態把握や分析、改善策を検討していく。
 - ウ 点数等の数値表示、一覧表の作成、順位づけはしない。

平成30年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【伊方地域】

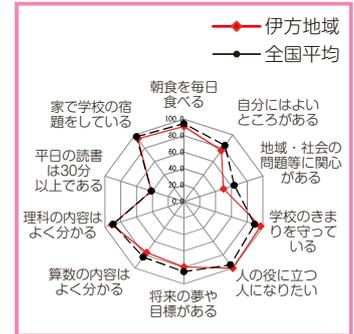
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的回答）

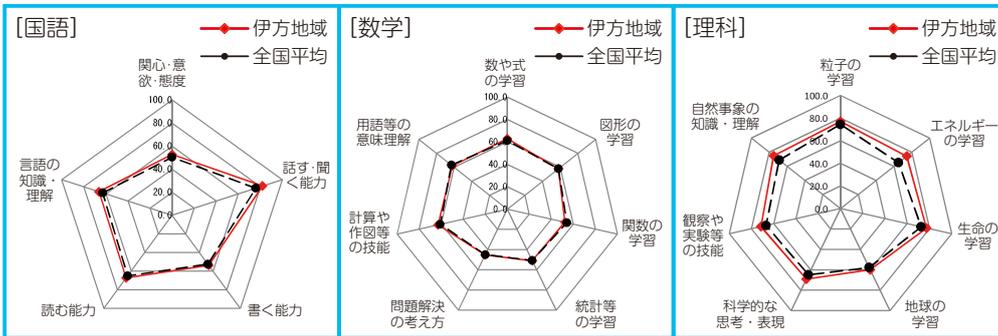
<小学校>



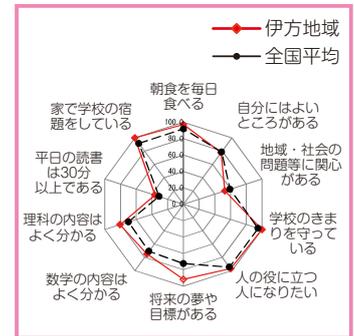
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

≪小学校≫

- 国語は、全項目において全国平均を下回っている。中でも「話す・聞く能力」に課題がある。
- 算数においては、活用問題は全国平均を上回っているが、基礎基本の問題の徹底が課題である。理科は、全国平均をやや上回っているが、「地球の学習」に課題が見られる。
- 児童生徒質問紙調査においては、「学校のきまりを守っている」や「人の役に立ちたい」は、全国平均を上回り規範意識の高さが伺える。しかし、「地域・社会の問題等への関心」や自己肯定感の低さが課題と言える。

≪中学校≫

- 国語、数学、理科ともに、ほとんどの項目で全国平均を上回っている。特に国語の「話す・聞く能力」、理科の「エネルギーの学習」「自然現象の知識・理解」は、よい傾向にある。
- 児童生徒質問紙調査では、ほとんどの項目で肯定的な回答が全国平均を上回っている。特に「将来の夢」の項目は、昨年に続いて向上が見られる。「自分にはよいところがある」の項目では全国平均と同程度まで向上している。「地域・社会の問題等に関心がある」の項目は、昨年に引き続いて全国平均を下回っている。

改善方針

≪小学校≫

- 各教科等を通して、「話す・聞く能力」を伸ばすための指導の工夫を図る。
- 算数では、「数や計算」「数量関係」の学習において、基礎基本の定着に努める。
- 地域・社会の問題等への関心や自己肯定感を高める指導の充実を図る。

≪中学校≫

- 数学の基礎的・基本的な力を伸ばし、活用能力の向上に努める。
- 「地域・社会の問題等に関心がある」の向上に向けて、授業改善や多様な活動の実践に努める。

≪小中共通≫

- 学習習慣の定着を図るとともに、「分かる・考える・伸びる」授業の充実に努める。
- 学級や家庭において読書時間の確保に努めるとともに、読書への興味・関心を高める。

具体的な取組

≪小学校≫

- 「話すこと・聞くこと」を意識し、対話的・協働的な学びを重視した授業改善に努める。
- 繰り返し学習をすることで、用語等の意味理解を深め、既習内容の定着を図る。
- 道徳科を中心に、全教育活動を通して自己肯定感を高めていく。

≪中学校≫

- 思考する場面や表現する場面を積極的に設定し、主体的に考え、学ぼうとする意欲を高める。
- 集会活動や体験活動を充実するとともに、専門性の高い技をもつプロ等、本物から学ぶ場を積極的に設定し、個性や自己肯定感の伸長を図る。

≪小中共通≫

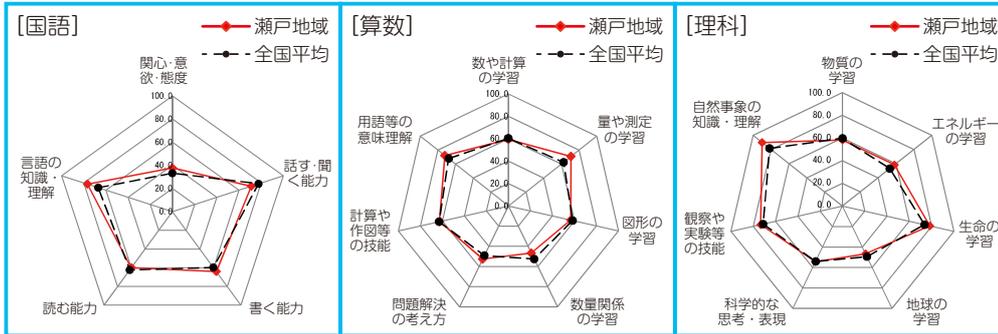
- 個別指導や補充学習の充実に努め、個々の能力の伸長を図る。
- 「家庭学習!学びのステップ」を継続的に活用し、家庭と連携して、読書をはじめ児童生徒の学びを支援する体制を整備する。
- 総合的な学習の時間等を利用して、体験的な活動の充実を図ることで、地域・社会への関心を高める。

平成30年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【瀬戸地域】

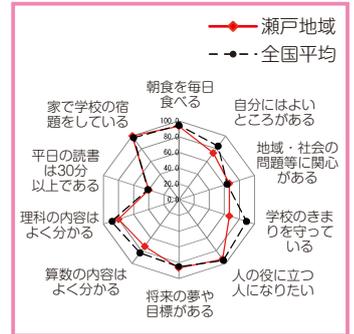
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的な回答）

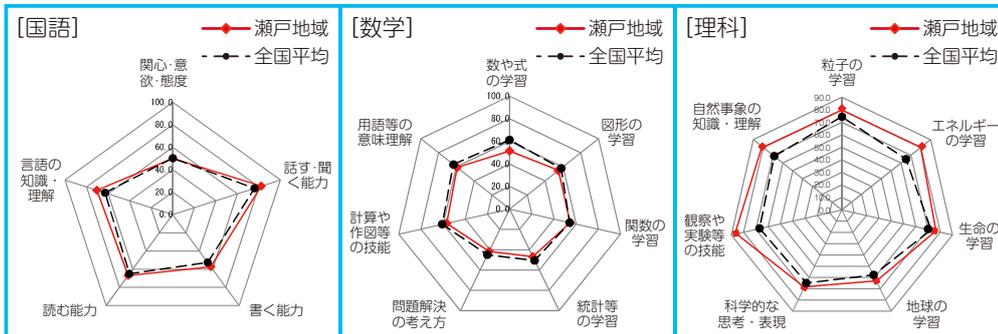
<小学校>



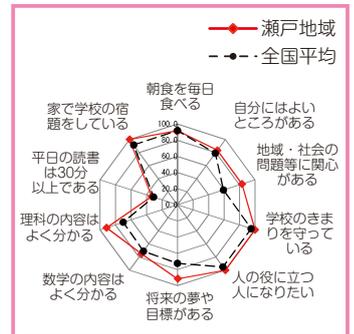
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

≪小学校≫

- 国語の「関心・意欲・態度」「書く能力」「言語の知識・理解」は、昨年に引き続き全国平均を上回っている。「読む能力」「話す・聞く能力」は、やや下回っている。
- 算数は、どの項目も全国平均とほぼ同じだが、問題別に見ると、活用問題は平均を上回り、基礎・基本の問題は下回っている傾向にある。特に数量関係の学習が課題である。
- 理科は、どの項目も全国平均とほぼ同じであり、前回に比べ、改善が見られる。特に「自然事象の知識・理解」が伸びた。
- 児童生徒質問紙調査では、「学校のきまりを守っている」「自分にはよいところがある」の項目が低い。しかし、昨年度と比べて1日の読書量が増えており、活字離れが改善されている。

≪中学校≫

- 国語科は、各項目で全国平均を上回っているか、全国平均とほぼ同じである。
- 理科は、すべての項目で全国平均を上回っている。
- 数学は、全国平均を若干下回っている。
- 児童生徒質問紙調査では、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」という項目で、昨年度を上回っている。
- 「朝食を毎朝食べている」「平均読書は30分以上である」という項目では、昨年度を上回っている。

改善方針

≪小学校≫

- 国語だけでなく、他教科や日常の活動の中で、主体的・対話的な学びに力を入れ、「話す・聞く能力」を高めていく。
- 基礎的なドリル学習や個別指導を繰り返すことにより、知識・理解、技能の習熟を図る。活用については、引き続き、定期的に課題を与え、学力の向上を図る。「分かる」授業を展開するための工夫をしていく。

≪中学校≫

- 国語科は、興味・関心を高めるような授業を展開していく。
- 理科は、「科学的な思考・表現」の力を高めさせる。
- 数学は、より一層基礎・基本の学習を定着させる。

≪小中共通≫

- 「分かる喜び」を大切にされた補充学習の時間を確保し、基礎・基本の定着を図る。
- 自己肯定感を高める集団活動を工夫する。

具体的な取組

≪小学校≫

- ねらいを明確にし、自分の考えを持って話し合う場を設定し、対話的な授業の実践に努める。
- 算数では、基礎・基本の力の定着を図るとともに、図やグラフなどをもとに自分の考えを説明する場を設定する。
- 家庭だけでなく、学校での平日の読書の時間を設定したり、読み聞かせをしたりして読書に親しませ、多様な文章に触れさせることで読解力を育成する。
- 学校行事や日々の活動において、体験的な学習を多く取り入れ、成就感・達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。
- 「家庭学習がんばりカード」に読書の項目を入れたことで効果が見られたので、引き続き活用し、保護者との連携を図りながら家庭学習や読書の習慣づけを行う。

≪中学校≫

- 国語科は、毎時間ごとの目標をはっきりさせ、授業の最後に振り返りを行うことで達成感を感じさせる。
- 理科は、少人数のよさを生かし、個別指導や小グループでの学び合いを充実させる。
- 数学は、小テストの定期的な実施で基礎的・基本的事項の定着を図る。

≪小中共通≫

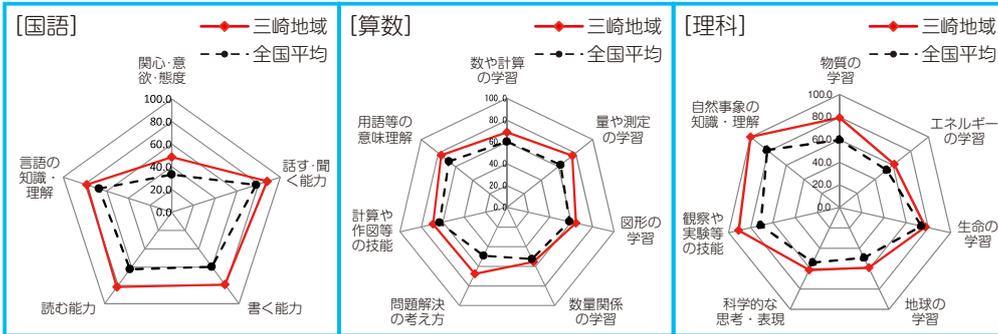
- 補充学習の時間を確保し、個に応じた問題に取り組ませる。
- 学校行事や日々の活動、小中連携などにおいて、体験的な学習を多く取り入れ、成就感・達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。

平成30年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【三崎地域】

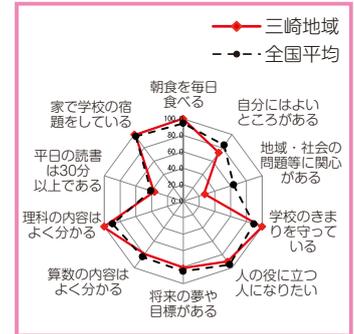
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的回答）

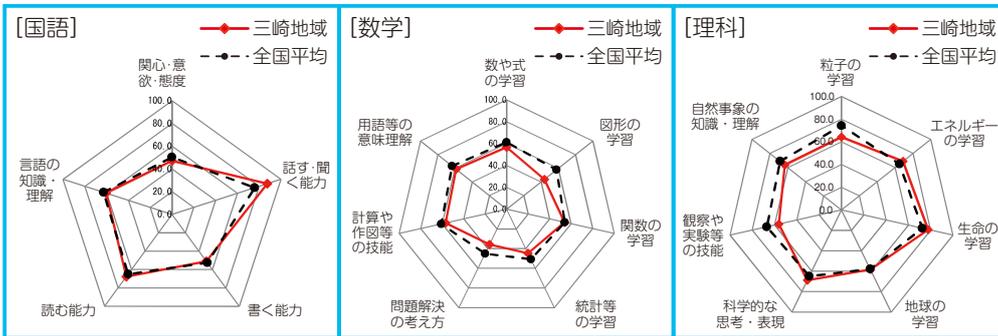
<小学校>



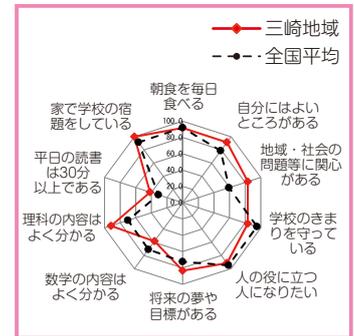
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

《小学校》

- 国語・算数・理科の正答率は、どの教科も全国平均を上回っている。
- 児童質問紙調査によると、ほとんどの項目で全国平均と同程度であるが、自己肯定感と「地域・社会の問題等に関心がある」は、全国平均を下回っている。

《中学校》

- 国語は、昨年度の調査では全国平均を下回っていた「話す・聞く能力」「読む能力」で、今年度は上回っている。しかし、活用問題における「関心・意欲・態度」「書く能力」「言語の知識・理解」が全国平均を下回っている。
- 数学は、ほぼ全ての項目において全国平均を下回っている。活用問題における「関数の学習」に関しては、全国平均を上回っている。
- 理科は、「エネルギーの学習」「生命の学習」「地球の学習」「科学的な思考・表現」で全国平均を上回っているが、「粒子の学習」「観察や実験等の技能」は全国平均を下回っている。
- 「自分にはよいところがある」「地域・社会の問題等に関心がある」は、全国平均を上回っているが、「学校の決まりを守っている」は全国平均を下回っている。

具体的な取組

《小学校》

- 補充学習の時間やICTなどの情報機器を効果的に活用し、個別指導の充実に努め、計画的かつ継続的に行う。
- 各教科において、自分の考えを絵や図を用いたりワークシートを活用したりして、友達に分かりやすく伝える活動を増やす。

《中学校》

- 朝学習や授業時において、基礎・基本に関する小テストを継続的に行い、理解が不十分な生徒には補充学習を行うことで、基礎的・基本的な内容を定着させる。
- 各教科で、自分の考えを文章にまとめ発表する場面を設定し、自分の考えを表現する力、人の意見を聞く力を身に付けさせる。
- 家庭生活や学校生活の態度を振り返り、よりよくするための工夫を考える集会や生徒総会、道徳の授業を行うことで、規範意識を高める。

《小中共通》

- 個別指導の時間を確保し、個の定着の度合いに応じて教材を工夫する。
- 生活リズムチェック表を小中同時期に活用し、家庭との連携を図ることで、生活習慣を整える。
- 道徳の時間や学校行事、小中連携の行事を通して、自己肯定感や規範意識を高める。

改善方針

《小学校》

- 各教科において、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞き合う時間を設定し、互いに学び合う場を工夫する。
- 算数的学習を通して、「数量関係の学習」や「図形の学習」の基礎的・基本的技能の定着を図る。
- 理科では、「エネルギー」「生命」「地球」の学習の基礎・基本の定着を図る。
- 「地域・社会の問題等に関心がある」は、朝の会や終わりの会のスピーチ・各教科等で地域や社会の問題を意識したり、触れ合ったりする場面を増やして、関心を高める工夫をする。

《中学校》

- 基礎・基本に関する小テストや個別指導、補充学習を行い、基礎・基本の定着を図る。
- 自分の考えをまとめたり、お互いの考えを話し合ったりする授業を充実させ、主体的に学ぼうとする態度の育成を図る。
- 保護者との連携を図り、「早寝・早起き・朝ごはん」といった基本的な生活習慣や家庭での学習習慣を確立させる。

《小中共通》

- 個別学習を充実させ、基礎・基本の定着に努める。
- 生活リズムを整え、生活習慣、学習習慣を定着させる。
- 異年齢や地域の方との活動を取り入れ、自己肯定感や地域・社会への関心を高める。